美濃陶磁歴史館だより

連続コラム　うちんたぁのお宝、なんやね？

第23回　妻木の熊谷吉兵衛①

美濃の大陶商「西浦屋」を支えた人

今回から、11月19日から始まる展覧会についてご紹介します。

テーマは、妻木出身の商人「熊谷吉兵衛」の知られざる生涯です。熊谷吉兵衛（1814－1890）は、文化11年に妻木村（現妻木町）の神宮地区に生まれ、幕末から明治への時代の転換期に多治見の大陶商「西浦屋」の江戸店支配人として活躍した人物です。

幕末、西浦屋は大阪と江戸にそれぞれ支店を構え、多治見本店を含めた3店舗で全国へ美濃焼を流通させる販売網を構築します。吉兵衛は江戸店支配人を務めつつ、西浦屋の大番頭として3店舗の動向に目を配り、維新前後の混乱期も吉兵衛の采配で乗り切りました。

吉兵衛は、西浦屋の商売の傍ら江戸で「石門心学」という学問を極め、明治初年の西浦屋隠居後は「東洲」と名を改め、「参前舎」という心学講舎（学び舎）の舎主を務めるまでになります。

石門心学は江戸時代に商人を中心に広まり、後には渋沢栄一や松下幸之助も影響を受けたという学問です。

吉兵衛は、石門心学を通して、政界の要人などと交流がありました。そのうちの一人が「山岡鉄舟」で、鉄舟と吉兵衛が共作した書が残されています。

江戸城無血開城の立役者として知られる山岡鉄舟は剣や書、禅の達人で、明治天皇の侍従も務めていたことから、明治13年（1880）の明治天皇の東濃巡幸に随行し、虎渓山永保寺などを訪れています。吉兵衛とは石門心学を通じ、東京で接点があったとみられます。



書「忠孝仁」
山岡鉄舟・熊谷東洲（吉兵衛）
明治初頭（19世紀）
山岡鉄舟が「忠孝仁」の題字をしたため、下に吉兵衛が石門心学の教えを記した書



伝・熊谷吉兵衛肖像写真
明治初頭（19世紀）

企画展のご案内

妻木の熊谷吉兵衛

－美濃の大陶商「西浦屋」を支えた人－

会期：11月19日(土)～2月26日(日)

同時開催：収蔵品展「黄瀬戸」

美濃陶磁歴史館
(☎㊺1245)



西浦焼釉下彩獅子文花瓶
明治時代後半（20世紀）